【小学校版１３】

校内研修　「Q-Uを活用した学級集団づくりーアセスメントとその対応ー」実施・進行案（進行者用）

実施過程	実施内容・要点	時間 90分	プレ ゼン	進行者の主な指示例・発問例	＊留意点　【　　】内は使用する資料名
はじめに	◎本校内研修の概略説明 ○ウォーミングアップ １　ねらいの確認 (1) 学級集団を客観的にとらえる必要性を理解する (2) Q-Uに関する基礎的な内容を理解し、学級集団のアセスメントをする (3) Q-Uの結果を活用した事例研究を通して、具体的な支援・援助策を検討する	3 2	1 2	［説明］今日は「Q-Uを活用した学級集団づくりーアセスメントとその対応ー」について研修します。アセスメントとは、「どのような状態なのか把握する」ということです。 【指示】研修の前にウォーミングアップとして「ミラクルじゃんけん」をやってみましょう。先ず、お隣の方とペアになってじゃんけんをします。何を出すかは相談しないで、２人で同じものが出るまで続けてください。（実施、称賛）次は、お隣のペアと一緒になって４人でやってみましょう。（実施、称賛）次は、全員でやってみます。（実施）全員そろいましたね。すごいです。○○○校の先生方の心が一つになりました。この調子で、今日の研修も心を一つにして取り組んでいきましょう。 ［説明］それでは、研修に入りましょう。今日の研修のねらいは「学級集団を客観的にとらえる必要性を理解する」「Q-Uに関する基礎的な内容を理解し、学級集団のアセスメントをする」「Q-Uの結果を活用した事例研究を通して、具体的な支援・援助策を検討する」の３つです。	＊リラックスした雰囲気で研修が始められるようウォーミングアップは、楽しくできるように声をかけたり、盛りあげたりする。様子を見て、コツ（手を止めてお互いの手をよく見る）を伝える。 【テキスト資料】 ＊研修の目的をきちんと押さえて研修に入る。できるだけゆっくりとていねいに説明する。さらに、具体的事例を入れられるとなおよい。
Ⅰ説明	２　集団理解の必要性 児童理解 → 個別理解 児童理解 → 集団理解 ３　Q-Uについて (1) Q-Uとは？ 「楽しい学校生活を送るためのアンケート」 ・学級集団の状態の把握 ・学校生活での**満足感**と**意欲**を測定 (2) Q-Uの特長 ・実施・活用が容易 ・個人、集団、個人と集団の関係性の把握 (3) Q-U実施の目的 ・問題行動の未然防止、意欲の喚起・促進 (4) Q-Uの構成 (5) 結果の見方 ①「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」について ・４群（学級生活満足群、非承認群、侵害行為認知群、要支援群を含む学級生活不満足群） １）縦軸－承認感 リレーション ２）横軸－被侵害感 ルール ②「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」について ・３領域（友達関係、学習意欲、学級の雰囲気）の意欲の高低 (6) Q-U活用の留意点	1 1 1 2 1 4 2 3	3 4 5 6 7 8 9 10 ～ 15 16 17 18 19	［説明］児童理解というと一人一人の児童を個人として理解するというイメージが強いと思いますが、学級など**集団を理解すること**も大切です。どんな集団のなかで過ごすかによって、個人としてどのように成長していくかが変わってきますし、逆にどのような児童が集まっているかで、どんな集団になるかも変わってきます。個人と集団とは相乗効果で高まっていきますので、個別理解と**集団理解**の両方を行うことが大切です。特に、日本の学級は学習をするだけの集団ではなく、日常生活をともにする生活集団としての機能も持っていますので、学級集団に関する理解はとても大切です。学級集団を客観的に理解しながら学級づくりをしていく必要があります。 ［説明］Q-Uとは、「楽しい学校生活を送るためのアンケート」という学級集団の状態が把握できる心理テストです。教員が学級集団の状態だけでなく、学校生活における児童個人の**満足感**と**意欲**を知ることができます。 ［説明］Q-Uを実施することにより、学級の実態を個人と集団のレベルで把握することができるため、学級の課題を解決していくヒントが得られます。なお、Q-Uは、個人や学級の状態を捉え、児童の支援や学級経営の方針をつかむためのもので、担任の評価資料ではありません。 ［説明］Q-Uは１０～１５分の短時間で実施できます。集計は業者に依頼することもできますが自分で集計することもできます。また、結果の理解が容易で活用しやすいのが特長です。先ほども説明しましたが、個人及び集団の実態、個人と集団の関係性が把握できる信頼性の高いテストです。 ［説明］Q-Uを実施することで、児童個人の心理面、行動面の理解を深めるとともに、学級集団の状態を把握することができます。それに基づいて計画的な指導・援助をすれば、問題行動の未然防止や意欲的な言動の喚起・促進に役立てることができます。 ［説明］Q-Uは、「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の２つのアンケートから構成されています。「じぶんのこうどうをふりかえるアンケート」：小１～３年用、「ふだんの行動をふりかえるアンケート」：小４～６年用は、hyperーＱＵにのみ入っています。 ［説明］「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」では、児童一人一人の承認感と被侵害感をはかり、学級生活満足群、非承認群、侵害行為認知群、要支援群を含む学級生活不満足群の４群に表示します。 ［説明］「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」結果は、児童一人一人がプロットでグラフに表示されます。 縦軸は承認感の高低を表し、集団でのリレーション（関係性）がわかります。得点が高いほど承認感が高くリレーション（関係性）がよいことになります。横軸は被侵害感の高低を表し、集団のルール徹底の程度がわかります。得点が高いほど被侵害感を感じていることになり、ルールが守られていない危険性があります。縦軸と横軸の交点は全国平均を示しています。特徴的な５つの学級の型について、参考資料で説明します。児童たちがグラフのどの場所にまとまっているかで学級集団の状態を判断します。矢印の下はそれぞれの学級の型に対する指導のポイントですので、参考にしてください。 ［説明］小学生用の「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」では、学校生活での意欲が友達関係、学習意欲、学級の雰囲気の３領域でレーダーチャートで表示されます。 ［説明］「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」は、レーダーチャートから学校生活での意欲がどの領域で高いか低いかがわかります。アンバランスな児童やすべての項目が低い児童には細やかな対応が必要です。また、「学習意欲」だけが高く、「友達関係」、「学級の雰囲気」が低い児童には注意が必要です。 ［説明］Q-Uを活用する際の留意点は、①結果をもとに児童を叱責したり、結果を公表したりしない。②調査をしたら、丁寧な対応をすぐに行う。③原因は教師のパーソナリティーに求めず、マッチングに求める。④日常観察も大事にし、継続して柔軟に対応する。⑤結果は、できるだけ複数の人で考察し、**多くの違った**視点から支援策等を考える。ということです。以上でQ-Uに関する説明を終わります。	【テキスト資料・参考資料】 ＊テキスト資料を参照しながら、プレゼン資料をもとに説明していく。必要に応じて参考資料も見てもらうようにする。 ＊Q-Uは健康診断のようなものなので、問題の早期発見、早期対応のためにあまり抵抗を感じず行ってよいこと、Q-Uの結果がおもわしくないものでも、決して担任のパーソナリティーのせいではなく、学級の実態と教師の指導・援助法をうまく組み合わせることにより、児童個々人や学級集団をよい方向に改善することができることを強調して説明する。 ＊参考資料を基に５つの学級の型について、大まかに説明し、詳細については資料を見てもらう。 ・満足型学級→　リレーションとルールが確立しており、まとまりのある学級 ・縦 型 学 級→　リレーションの確立がやや低く、かたさの見られる学級 ・横 型 学 級→　ルールの確立がやや低く、ゆるみの見られる学級 ・斜め型学級→　ルールとリレーションが低く、荒れ始めの学級 ・崩壊型学級→　ルールとリレーションが喪失した学級
Ⅱ演習	４　事例研究 ○進め方 ○演習	60		【指示】引き続き事例研究に入ります。まずは、グループをつくります。ブロックごとに３つのグループになってください。各学年に所属していない先生方は、人数の少ないグループにお入りください。 ※　【演習進行案】参照 ［説明］以上で事例研究演習を終わります。Q-Uでは、個人や集団のよさも読み取ることができるので、課題だけでなくよさを伸ばすという視点でも活用してください。また、一人だけで読み取りを行うと、視点が狭くなりがちなので、今回のような事例研究を通して複数の目で見ると、より効果的な活用ができます。	【演習進行案】 ＊事例は自校のなかから提供してもらう。ただし、適切な事例がない場合は資料を活用する。 ＊進行者はグループに入らず、グループの人数調整を行ったり、話し合いの様子を観察したりする。 ＊事例提供者の先生には事前に事例研究で話してもらうことを伝えておくようにする。全体協議でのグループの発表のときは、補助者（発表のキーワードの板書を手伝ってもらう）を決めておく。
Ⅲまとめ	◎活動の振り返り ◎進行者のまとめ ・児童理解→個別理解＋（**集団理解**） ・Q-Uの結果→（**満足感**）＋（**意欲**） ・事例研究→課題に対する支援策を（**多くの違った**）視点から考えることができる	10		【指示】今日の研修の感想をお願いします。 ［説明］大切なキーワードを確認して終わりたいと思います。テキスト資料の括弧のなかを埋めてみてください。（１分程度時間をとる）では私が読んでみます。「児童理解には、個別理解とともに**集団理解**が必要である。Q-Uの結果からは、児童の学校生活での**満足感**と**意欲**を客観的にみることができる。事例研究を行うことにより、課題に対する具体的な支援策等を**多くの違った**視点から考えることができる。」です。今日の研修をもとにQ-Uを活用され、先生方がさらに居心地のよい、やる気のある学級づくりをしていかれることを期待しています。 （称賛）先生方の熱心な取組みが大変印象に残りました。ありがとうございました。	【テキスト資料】 ＊感想に対して、肯定的なフィードバックを行い、研修を通して感じたことを共有させる。 ＊テキストを基に演習のまとめは丁寧に行う。

Q-Uを活用した学級集団づくり
—アセスメントとその対応—

1　研修のねらい

(1)　学級集団を客観的にとらえる必要性を理解する。
(2)　Q-Uに関する基礎的な内容を理解し、学級集団のアセスメントをする。
(3)　Q-Uの結果を活用した事例研究を通して、具体的な支援・援助策を検討する。

2　集団理解の必要性

児童理解には、個別の理解と**集団としての理解**がある。集団と個人は、互いに相乗効果で高まっていくことから、両面からバランスよく理解していくことが大切である。

また、日本の学級は学習集団と生活集団の両方の機能をもつことから、学校生活への満足度が学級集団の状態に大きく影響する。そこで、学級集団を客観的に理解し、よさや課題を見極めながら学級づくりをしていく必要がある。

3　Q-Uについて

(1)　Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）とは？

①　学級集団の状態を把握するために開発されたアンケート調査。
②　児童の学校生活での**満足感**と**意欲**を、質問紙によって測定するもの。

(2)　Q-Uの特長

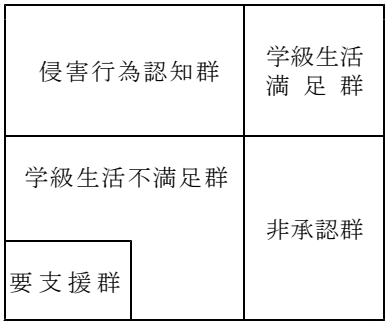
①　実施・活用しやすい。
②　個人の内面、集団の状態、個人と集団の関係性がわかる。

(3)　Q-U実施の目的

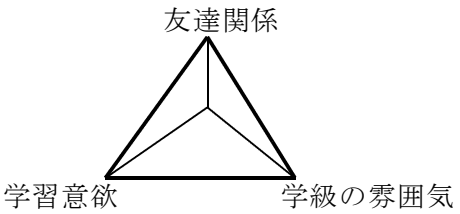
児童の心理面、行動面の理解を深め、現状の学級集団の状態を適切に把握し、計画的な指導と援助を積極的に行うことで、問題行動の未然防止や意欲的な言動の喚起・促進に役立てる。

(4)　Q-Uの構成

①「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」
＝学級満足度；４群のプロットで表示される。
◇学級生活満足群
◇非承認群
◇侵害行為認知群
◇学級生活不満足群（要支援群を含む）



②「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」
＝学校生活意欲　小学生用；３領域のレーダーチャートで表示される。

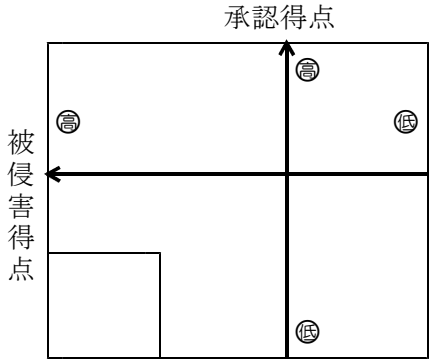


◇　友達関係　　設問 No. １～３
◇　学習意欲　　設問 No. ４～６
◇　学級の雰囲気　設問 No. ７～９

③ 小１～３年用；「じぶんのこうどうをふりかえるアンケート」（hyper-QUのみ）
　＝ソーシャルスキル：１２の項目毎にグラフで表示される。
小４～６年用；「ふだんの行動をふりかえるアンケート」（hyper-QUのみ）
　＝ソーシャルスキル：２種類のスキルのバランスで表示される。
　　◇配慮のスキル　　（思いやり力）
　　◇かかわりのスキル（自己表現力）

(5)　Q-Uの結果の見方

① 「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」



・縦軸……承認感の高低を表す。
　　＝集団のリレーション（関係性）形成の程度がわかる。

・横軸……被侵害感の高低を表す。
　　＝集団のルール徹底の程度がわかる。

・縦軸と横軸との交点……全国平均を示す。

② 「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」
・毎日の生活に、どの程度意欲を持って取り組むことができているのかがわかる。
・学級生活での意欲が、どの領域について高いか（低いか）がわかる。

③ 「じぶんのこうどうをふりかえるアンケート」；小１～３年用（hyper-QUのみ）
・ソーシャルスキル・・・・・ １２の項目毎にその定着の程度がわかる。
「ふだんの行動をふりかえるアンケート」；小４～６年用（hyper-QUのみ）
・「配慮」のスキル・・・・・・（思いやり力）　他者を尊重する姿勢が行動レベルで実行されているかどうかがわかる。
・「かかわり」のスキル・・（自己表現力）　配慮のスキルを前提に、人と関わるきっかけや関係の維持、感情交流の形成ができているかどうかがわかる。

(6)　Q-U活用の留意点

① 結果をもとに児童を叱責したり、結果を公表したりしない。
② 調査をしたら、丁寧な対応をすぐに行う。
③ 原因は教師のパーソナリティーに求めず、マッチングに求める。
④ 日常観察も大事にし、継続して柔軟に対応する。
⑤ 結果は、できるだけ複数の人で考察し、**多くの違った**視点から支援策等を考える。

4　Q-Uを活用した事例研究演習

5　まとめ　～（　）に本日の研修のキーワードを入れてみましょう～

○　児童理解には、個別理解とともに（　　）が必要である。

○　Q-Uの結果からは、児童の学校生活での（　　）と（　　）を客観的にみることができる。

○　事例研究を行うことにより、課題に対する具体的な支援策等を（　　）視点から考えることができる。

Q-Uを活用した学級集団づくり
—アセスメントとその対応—

学級集団アセスメント（Q-U）

1　学級集団アセスメント（Q-U）[QUESTIONNAIRE-UTILITIES]

○　小学校１～３年用、小学校４～６年用、中学校用、高校用などがある。
○　質問紙により、児童たちの学級生活での満足感と意欲、学級集団の状態を測定

2　Q-U実施の目的

児童の心理面、行動面の理解を深め、現状の学級集団の状態を適切に把握し、計画的な指導と援助を積極的に行うことで、(1)問題行動の未然防止や、(2)意欲的な言動の喚起・促進に役立てる。

(1) 問題行動の未然防止…… いじめの発見・予防、不登校や学級崩壊の予防、各種生徒指導上の問題の予防など。
(2) 意欲的な言動の喚起・促進…… 既に持っている力の更なる伸長、新たなことに挑む意欲の育成、チームワークの醸成、適応感の高揚など。

↓

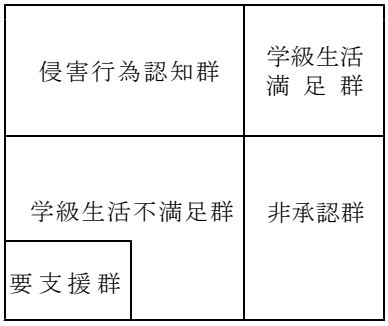
早期発見・早期対応

↓

児童をよりよい方向へ導く上で参考になる。
「宝の持ち腐れ」を防ぐ。

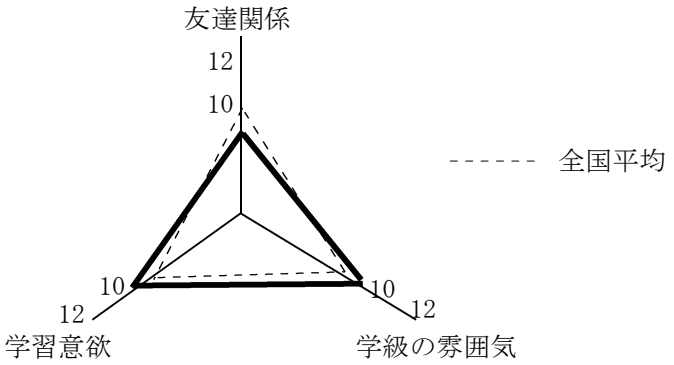
3　Q-Uの構成

(1) 「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」
　＝学級満足度；４群のプロットで表示される。
　　◇学級生活満足群
　　◇非承認群
　　◇侵害行為認知群
　　◇学級生活不満足群（要支援群を含む）



(2) 「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」
　＝学校生活意欲　小学校用；３領域のレーダーチャートで表示される。

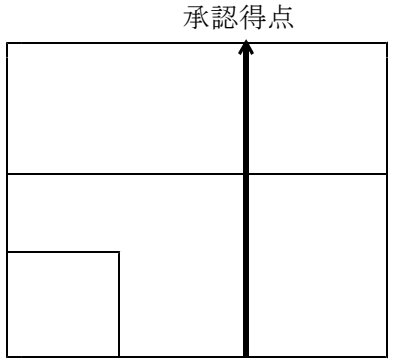
◇　友達関係
◇　学習意欲
◇　学級の雰囲気



(3) 「じぶんのこうどうをふりかえるアンケート」; 小１～３年用（hyper-QUのみ）
＝ソーシャルスキル：１２の項目毎にグラフで表示される。
「ふだんの行動をふりかえるアンケート」; 小４～６年用（hyper-QUのみ）
＝ソーシャルスキル：２種類のスキルのバランスで表示される。
◇配慮のスキル　　（思いやり力）
◇かかわりのスキル（自己表現力）

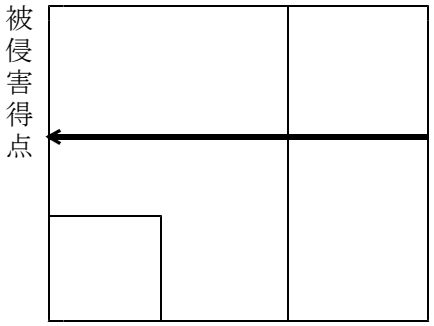
４　Ｑ－Ｕの結果の見方

(1) 「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」



① 縦軸……承認感の高低を表す。
＝集団のリレーション（関係性）形成の程度がわかる。
小学校用；◇設問No. 1～6

② 横軸……被侵害感の高低を表す。
＝集団のルール徹底の程度がわかる。
中学・高校用；◇設問No.7～12



③ 縦軸と横軸との交点……全国平均を示す。

(2) 「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」
① 毎日の生活に、どの程度意欲を持って取り組むことができているのかがわかる。
② どの領域についての意欲が高いか（低いか）がわかる。

小学校用	（↓設問No.）
◇ 友達関係	設問 No. １～３
◇ 学習意欲	設問 No. ４～６
◇ 学級の雰囲気	設問 No. ７～９

(3) 「じぶんのこうどうをふりかえるアンケート」; 小１～３年用（hyper-QUのみ）
・ソーシャルスキル・・・・・・ １２の項目毎にその定着の程度がわかる。
「ふだんの行動をふりかえるアンケート」; 小４～６年用（hyper-QUのみ）
①「配慮」のスキル・・・・・・（思いやり力）　他者を尊重する姿勢が行動レベルで実行されているかどうかがわかる。
②「かかわり」のスキル・・（自己表現力）　配慮のスキルを前提に、人と関わるきっかけや関係の維持、感情交流の形成ができているかどうかがわかる。
＊　ベースとなるのは「配慮」のスキル。「配慮」のスキルが低く、「かかわり」のスキルが高い児童・学級は対応が難しいケースもある。

5　Q-Uの結果から把握・検討できること

(1) 個人がわかる。
　① 充実した学校生活を送っている児童、自分のクラスに満足している児童
　② 不登校に至るおそれの高い児童、嫌な思いをしている児童
　③ 能力を発揮できている児童、発揮しきれていない児童
　④ 教師にメッセージを投げかけている児童　等

(2) 集団がわかる。
　① 自律できている学級、できていない学級
　② まとまりのある学級、まとまりのない学級
　③ 教師にメッセージを投げかけている学級
　④ 担任へのサポートが急務な学級　等

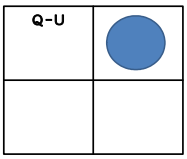
(3) 個人と集団の関係性がわかる。

6　Q-Uの結果の見方と指導のポイント

(1) いごこちのよいクラスにするためのアンケート
　①学級集団について

【満足型学級】

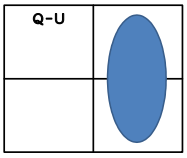
親和的なまとまりのある学級集団
～リレーションとルールが同時に確立している状態～



・学級にルールが内在化
・主体的な児童の活動
・和気藹々（あいあい）
・認め合い、助け合い
・担任不在でもある程度活動可能

【縦型学級】

かたさの見られる学級集団
～リレーションの確立がやや低い状態～



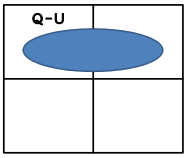
・一見静かで落ち着いて見える
・児童達の意欲に大きな差
・児童同士の関係に距離
・人間関係が希薄
・教師の評価を気にする傾向
・学級活動も低調気味

○ 現在の方針で学級経営を継続してよい。
○ 教師は委任的なリーダーシップをとる。
○ 児童たち主体で様々な課題を組み合わせた活動を多く取り入れる。
○ 児童たちの内面に入った内容の活動をし、人間関係の質を高める。

○ 評価の視点を多様化させる。
○ 児童たちが認め合える場を設定する。
○ がんばりを促す言葉かけをするなど、児童たちの緊張感を取り除く。
○ 児童たちを集団ではなく、個人個人として見る。
○ かかわり合いの基本的なルールを理解させ関係性が深められるようにする。
○ 教師は役割だけでない自分を出し、感情表出について自らモデルを示す。
○ 少人数でレクリエーション的な要素の多い活動を取り入れる。

【横型学級】

ゆるみの見られる学級集団
～ルールの確立がやや低い状態～



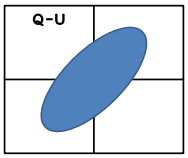
・一見、元気でのびのびと見える
・学級のルールが低下
・授業中の私語
・係活動の遂行に支障
・トラブルの頻発
・力の強い児童に学級全体が牛耳られてしまう傾向

↓

○　児童たちの不満の要因を探る。
○　児童たちのかかわり合いを促進する。
○　最低限の明確なルールのもとで活動させ、ルール違反をはっきりと指摘する。
○　教師自身もルールを意識して行動する。
○　学級生活で共有できる基本的なスキルを組み合わせた活動を取り入れる。
○　短時間ででき、少人数でレクリエーション的な要素の多い活動を取り入れる。

【斜め型学級】

荒れ始めの学級集団
～ルールとリレーションが共に低い状態～



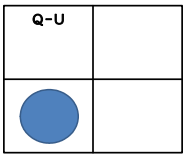
・かたさやゆるみの見られる状態
＋具体的対応なし→荒れ始めへ
・一見静かで落ち着いた学級、一見元気でにぎやかな学級というプラスの側面の喪失
・互いに傷つけ合う言動の増加

↓

○　児童たちの長所を意識的に観察し評価する。
○　教師は活動のプロセスを認める。
○　教師も児童たちの前で自己開示をする。
○　教師も自己評価をし、モデルを示していく。
○　学校組織での介入も必要である。
○　教師がリーダーシップを発揮し、児童たちが認め合える活動を取り入れる。
○　学校生活で必要な最低限のルールを身につけられるような活動を取り入れる。

【崩壊型学級】

崩壊した学級集団
～ルールとリレーションが喪失した状態～



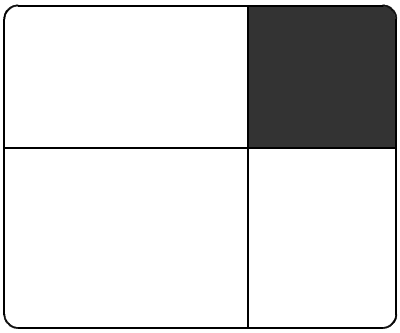
・学級不満足群に70％以上の児童がプロットされている状態
・すでに教育環境とはいえない
・私語と逸脱行動の横行
・教師へ露骨な反抗、授業不成立

↓

○　学校全体で組織的な対応をする。
○　児童と一対一の信頼関係を築く。
○　暴力的な児童がいる場合は、まわりの児童のコーピング（対処法）を高める。
○　個々で取り組めるプリントなどの作業学習を多くする。

② 一人一人の児童について

ア 学級生活満足群にプロットされた児童



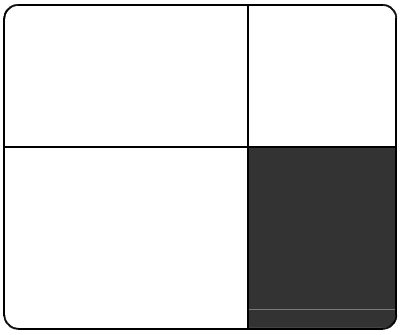
→→「承認得点」高い、「被侵害得点」低い

○ 学級内に自分の居場所がある。
○ 不適応感やトラブル少ない。
○ 学級生活・活動に満足している。
○ 意欲的に取り組んでいる。
○ 学級全体の指示で、自ら行動できる。

⇩

※現状を維持でき、より広い領域で活動できるような援助

イ 非承認群にプロットされた児童



→→「承認得点」低い、「被侵害得点」低い

○ 不安となる出来事はない。
○ 学級内で認められることが少ない。
○ 自主的に活動することが少ない。
○ 意欲が低い。

⇩

※全体の指示後にさりげない個別指導
※意欲を喚起するような言葉かけ
※級友から認められるような場面設定の工夫

ウ 侵害行為認知群にプロットされた児童

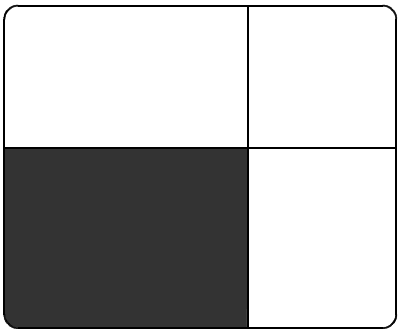
→→「承認得点」高い、「被侵害得点」高い

○ 学級生活や諸々の活動に意欲的である。
○ 自己中心的な面がある。
○ よくトラブルを起こす。
○ 被害者意識が強い。
○ 深刻ないじめを受けている場合もある。

⇩

※対人関係の調整を中心とした個別の配慮
※トラブルの対処には時間をとって考えさせる

エ 学級生活不満足群にプロットされた児童



→→「承認得点」低い、「被侵害得点」高い

○ いじめや悪ふざけを受けている可能性が高い。
○ 不安傾向が非常に強い。
○ 不適応になっている可能性がある。
○ 学級の中で居場所がない。
○ 不登校になる可能性が高い。

⇩

※早急な個別の面談
※計画的で具体的な対応

(2)　やる気のあるクラスをつくるためのアンケート

◇友達関係…クラスメイトと親和的な関係を築くことへの意欲
◇学習意欲…学習を通して自分を発揮することへの意欲
◇学級の雰囲気…クラスで活動することを肯定的にとらえていることへの意欲

※全体的に高い児童　→学校生活に積極的に関わっている。自分の活動に満足している。学級のなかでリーダーシップをとることができる。
※中間的な児童　　→強いリーダーシップをとる児童の影に隠れがち。よい面を積極的に見つけ、伸ばすようにする。
※全体的に低い児童　→諸活動に意欲を持って関われない。自分の活動に満足していない。不登校に至る危険性がある。
※アンバランスな児童→特に低い領域において問題を抱えている可能性がある。個別支援の際の資料とする。

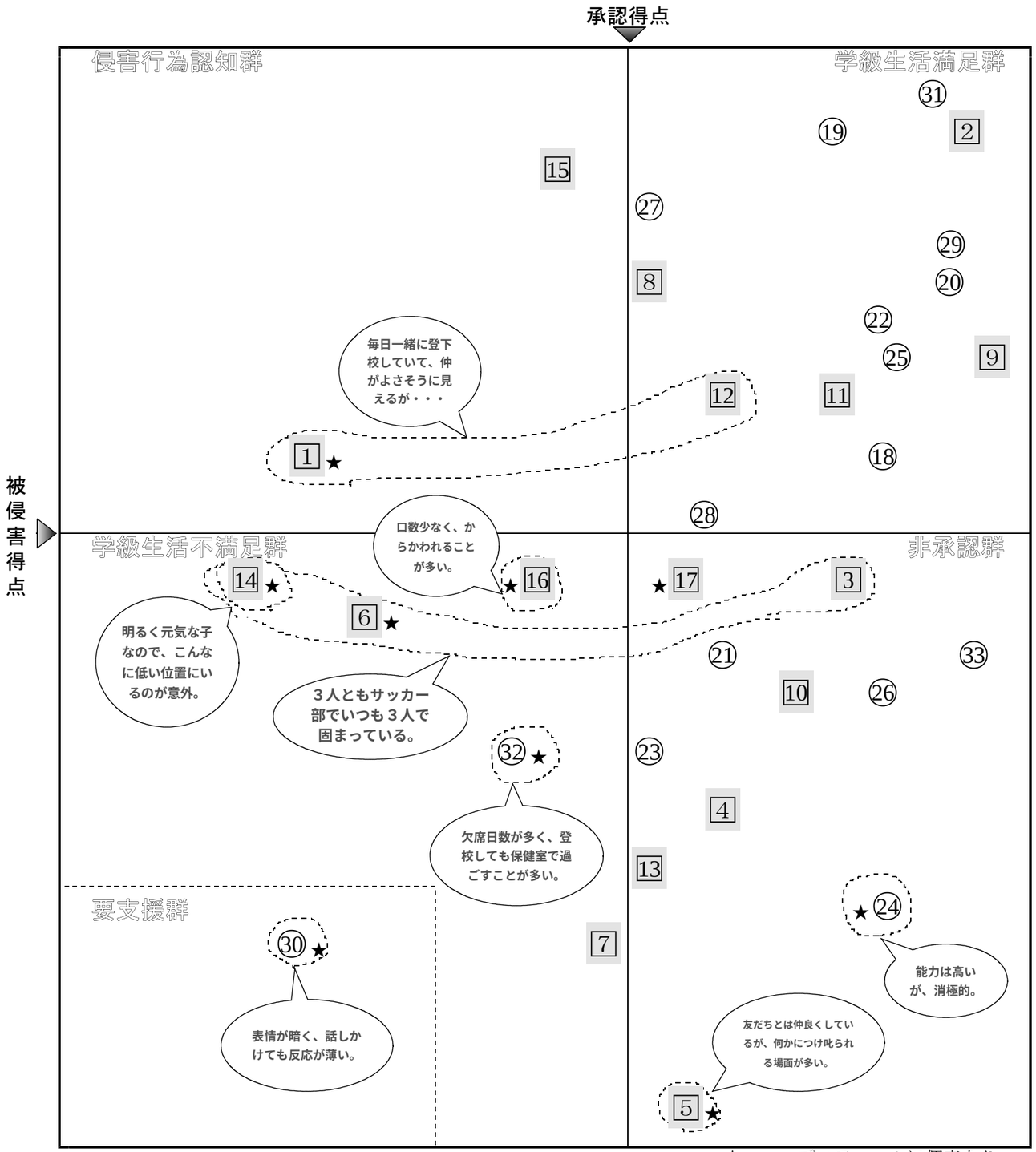
事例研究演習用紙

	課　題	支援・対応策
個　人	㊎　⑰学習意欲が低い。	㊎　先ずは、⑰の得意科目の家庭学習の進め方をアドバイスする。少し、自信がついてきたら他の教科でも行う。
グループ	㊎　①と⑫は仲がよさそうだが、二人の被侵害得点に開きが見られる。	㊎　担任が①と面談をし、友人との関係について話を聞く。必要に応じて、⑫とも話をする。
全　体	㊎　承認得点が低い児童がクラスの半数以上いる。	㊎　学級活動や帰りの会等の時間に集団のリレーションが高まるような活動を実施する。感情表出をしたり、関わり合いを持ったりするような機会を意図的につくる。

演習資料（進行者用・演習者用）

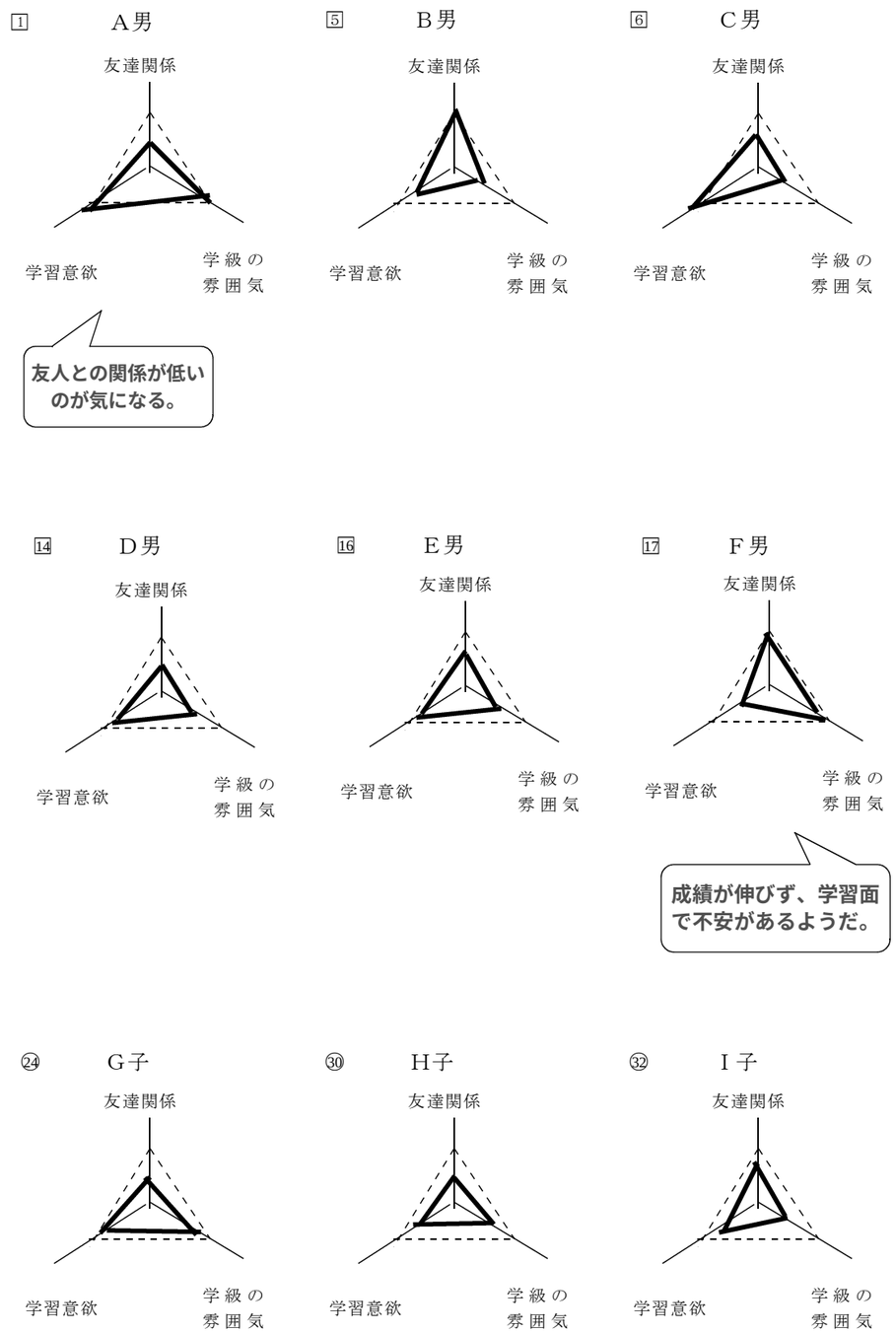
①Q-U　結果のまとめ

学級満足度尺度結果のまとめ



★・・・プロフィールに個表あり。

②Q-U　学校生活意欲プロフィール



〈事前の準備物〉
○　全員に･･･演習資料、事例研究演習用紙（Ａ４版）、付箋紙（ブルー３枚、ピンク３枚）
○　グループに･･･事例研究演習用紙（Ａ３版）、マジックペン１本
○　会場に･･･ホワイトボード（事例研究演習用紙と同じ枠を書いておく）、マーカー、タイマー

事例研究　（６０分）

①事例提供者からの学級の現状と学級担任としての願いの発表　（３分）

［説明］はじめに、今回、事例を提供してくださった○○先生より、学級の現状と学級担任としてこんな学級にしていきたいという願いをお話しいただきます。○○先生、お願いします。ありがとうございました。○○先生はご自分のブロックの班にお戻りください。なお、演習中、○○先生にお伺いしたいことや確認したいことがございましたら、進行者に申し出てください。

②個人ごとの資料の読み取り　（１５分）

※　演習資料、事例研究演習用紙（Ａ４版）、付箋紙配布

【演習資料】・・・Q-U結果のまとめ、Q-U学校生活意欲プロフィール
＊担任から見て、気になる児童やグループがわかるように書いておく
＊担任から見て予想と違う子がわかるように書いておく

※Q-U事例研究参考資料参照

【指示】まず先生方お一人お一人に資料を見ていただき、課題とその支援・援助策を個人、グループ、全体のそれぞれの視点で１つずつ考えていただきます。どうしてもそれぞれの視点で書けない場合は、全部で３つになればいいです。ブルーの付箋紙には課題を、ピンクの付箋紙には支援・援助策を、一枚に一つの事柄を簡潔に書いてください。支援・援助策は、できるだけ具体的で実際に取り組めそうなものを書くようにしてください。時間は１５分間です。では、始めてください。

③グループ協議　（２０分）

※事例研究演習用紙（Ａ３版）、マジックペン配布

【指示】グループ協議に入ります。個人ごとに書かれた課題や支援・援助策を出し合います。同じ意見はまとめて用紙に貼ってください。意見が出そろいましたら、支援・援助策のなかで緊急性、重要性のある順にマジックを使ってグルーピングし、順位をつけてください。時間は２０分間です。では、始めてください。

④全体発表・協議　（１７分）

※　ホワイトボード、マーカー

【指示】各グループの協議内容を発表していただきます。記録は○○先生にお願いしてあります。よろしくお願いします。優先順位の高い順に３つ発表してください。すでに発表されている場合は、３位以下のものをくり上げて発表してください。まず低学年お願いします。〈発表〉次に中学年です。〈発表〉次は、高学年です。〈発表〉ただいまの発表に対して、補足や質疑、意見はありませんか。

⑤事例提供者より感想発表　（３分）

【指示】最後に事例提供者の○○先生から感想を述べてもらいます。先生方からの提案で、今まで考えていなかった新たな視点、ぜひ実践してみたいこと、組織として私たちに協力を求めたいことなどがありましたら、お話しください。

⑥進行者より　（２分）

〈コメント例〉

○　事例提供者の立場に立って、真剣に考えていました。支援・援助策は、いつ・どこで・誰が・どんなことをするかなど具体的な支援・援助策として提案され、実際の指導援助に生かしていけるものになっておりすばらしいです。
○　多くの目で優先順位を付けることができ、この問題に対して、組織的な対応をスタートできたと思います。～という案も出されました。事例提供者の先生だけでなく、連携して対応して行きたいと思いますので、この後も先生方の協力をお願いします。
○　今日出していただいた１つ１つが重要なアイディアです。事例提供者の先生には各グループの事例研究演習用紙を持ち帰ってもらいますので、詳しく見ていただき今後の指導に生かしてください。

〈参考文献一覧〉

◇　学級づくりのためのＱ－Ｕ入門　　河村茂雄
（２００６　　図書文化）

◇　Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド　小学校編　　河村茂雄・粕谷貴志・武蔵由佳・藤村一夫・ＮＰＯ日本教育カウンセラー協会（編集）
（２００４　　図書文化）